学校番号	216

令和５年度　数学

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	「改訂版　高等学校　数学Ⅱ」（数研出版）						
副教材等	「改訂版　書き込み式シリーズ【基本～標準】教科書傍用　パラレルノート 数学Ⅱ」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、説明を聞いた後、自分で課題を解決して、正しい解答と照合して、さらに理解を深めるという方法で授業を進めていきます。
・副教材として、問題集を使ってもらいますが、これは日々の復習と定期考査前の演習に利用すると良いでしょう。問題集を反復練習することにより、より一層理解が深まると思います。
・家庭学習における課題は定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

指数関数・対数関数、微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、論理的に表現する能力を養うと共に、それらを活用する態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数学的活動を通して、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え方に関心をもつと共に、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に活用する。	数学的活動を通して、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察・表現する。また、プロセスを振り返り、多面的・発展的に考える。	数学的活動を通して、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。	数学的活動を通して、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。
評価方法	復習テスト 確認テスト ワークブック ノート提出 授業観察	復習テスト 定期テスト ワークブック ノート提出 授業観察	確認テスト 復習テスト 定期テスト 授業観察	確認テスト 復習テスト 定期テスト ノート提出 授業観察

上に示す観点に基づき、考査評価、各単元の確認テストや課題プリントへの取組状況等の割合評価を総合し、各学期の成績評価・５段階の仮評定算出。学年末に５段階の評定にまとめる。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	5章　指数関数・対数関数	1節　指数関数 1.指数の拡張	○	○			(a)指数の拡張に興味を持ち、指数を正の整数から整数に拡張したときも、指数法則が成り立つことを理解する。 (b)指数関数のグラフの特徴と性質を理解する。指数関数のグラフを利用して，方程式や不等式を解くことができる。 (c)累乗根の意味を理解し、簡単な計算ができる。 (d)指数を整数から有理数に拡張したときも，指数法則が成り立つことを学び，指数に関する理解を深める。	復習テスト ワークブック ノート提出 授業観察
		2.指数関数	○	○	○	○		
		2節　対数関数 3.対数とその性質	○	○			(a)対数の性質に興味を持ち、法則が成り立つことを理解する。 (b)対数関数を指数関数のグラフを使って視覚的に認識し，対数のよさを理解する。 (c)常用対数について理解を深め，自然数の桁数を求めたり，変化する数量について応用したりすることができる。 (d)指数関数の性質と関連づけながら，対数関数の性質について理解を深め，そのグラフの特徴と性質を理解する。	
		4.対数関数	○	○	○	○		
		5.常用対数	○	○	○	○		
2	6章　微分法と積分法	1節　微分係数と導関数 1.微分係数	○	○	○	○	(a)平均変化率の図形的意味を知る。微分係数の定義を理解し、接線の傾きと微分係数の図形的な意味を理解する。 (b)微分係数を関数的に捉え、導関数の定義を理解する。	復習テスト ワークブック ノート提出 授業観察
		2.導関数とその計算			○	○		
		3.接線の方程式	○	○	○	○		

							(c)グラフの接線の方程式を求めることができる。 (d)接線の傾きと関数の増減と導関数の正負の関係を考え、極大・極小を調べ、増減表が書ける。グラフが描ける。	
		2節　関数の値の変化 4.関数の増減と極大･極小 5.関数の増減･グラフの応用	○ 	○ ○	○ ○	○ ○	(a)微分係数の定義と関数の関係を理解し、図形的な意味を理解する。 (b)微分法を用いて，関数のグラフをかき，その結果を方程式の解の個数を調べることや不等式の証明に応用できる (c)微分法を用いて，関数のグラフをかき，その結果から関数の最大値・最小値を求め，具体的な事象の考察に活用できる。 (d)増減を求め，グラフの形を描画することができる。	
3		3節　積分法 6.不定積分 7.定積分 8.定積分と面積	 ○	 ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	(a)積分に興味を持ち、基本法則を理解する。 (b)定積分の定義を理解し、計算ができる。 (c)微分法の逆演算として不定積分を導入し、計算ができる。 (d)直線や放物線で囲まれた図形の面積を定積分により求める方法を理解し，面積を計算することができる。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:数学的な見方や考え方
　　c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。